

法人の規模拡大と収益アップについて

秋田市雄和平沢地区

農事組合法人 平沢ファーム
代表理事 齊藤 又右衛門

法人の規模拡大と収益アップについて

< 目 次 >

- 1 はじめに
- 2 法人の概要
- 3 集積までの道のり
- 4 法人経営のポイント
- 5 今後の課題



1 はじめに

- いかにして農地を集積したか
- 規模拡大による効率化
- 収益アップのための法人経営

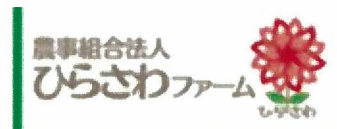


2 法人の概要 – 農事組合法人 平沢ファーム –

(1) 場所

(2) 設立経緯

(3) 経営概要



4



(1) 場所

住所：秋田市雄和平沢

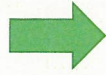
- ◎ 市内から車で約20分
- ◎ 周辺には、空港や観光施設、研究機関がある
- ◎ 旧集落は、平沢・妙法・石田・水沢

5

(2) 設立経緯

『地区の状況』

- ・ 兼業農家が多く零細
- ・ 地域の担い手がない



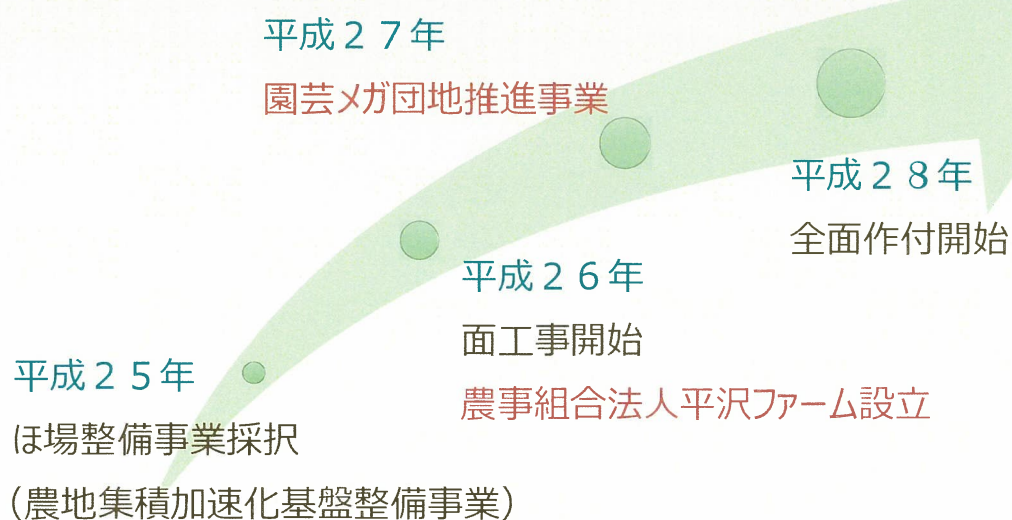
基盤整備の機運が高まる

平成20年 平沢地区基盤整備推進協議会 設立

平成21年 法人設立発起人会 発足（4集落の代表者）

県、市、土地改良区職員を交え、平成24年度までに50回を超える話し合いを実施。

(2) 設立経緯



(3) 経営概要 農事組合法人平沢ファーム（平成26年7月3日 設立）

構成農家戸数： 77戸

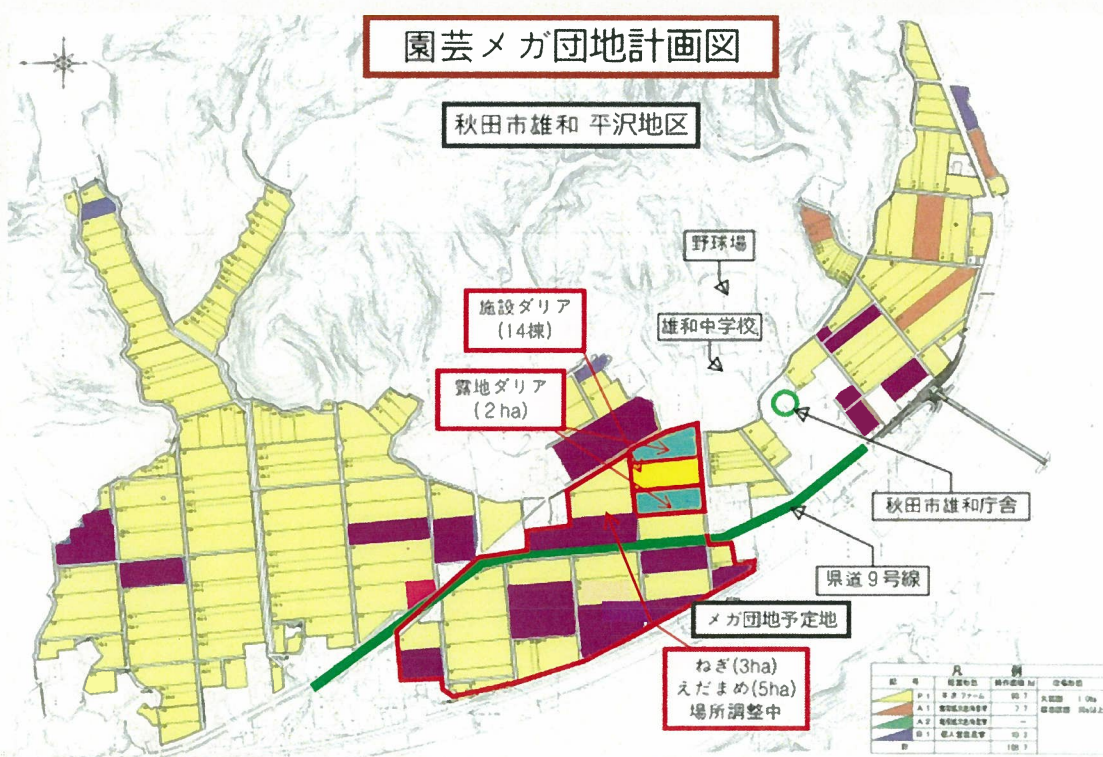
経営面積： 95.9ha

主な作物： 水稻（44.2ha）、大豆（43.2ha）

枝豆（ 4.8ha）、ネギ（ 1.9ha）、ダリア（1.8ha）

施設・機械： パイプハウス14棟、格納庫2棟、地下灌漑設備

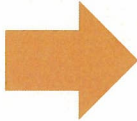
トラクター3台、コンバイン2台、各種収穫調整機材他



3 集積までの道のり ① 苦労のスタート

平成21年時点の法人への集積率： 48%

【集積が進まない理由】

- 法人への不安感
 - 農業機材
 - 自作の希望
- 
- ◎ 大儀名分
 - ◎ 地道な説明

3 集積までの道のり ② 地元への説明

「みんなのファーム」を旗印に地元の説明

- ☐ 平等に利益を還元
- ☐ 設立時の法人加入が条件
- ☐ 効率的な法人経営をブレずに説明

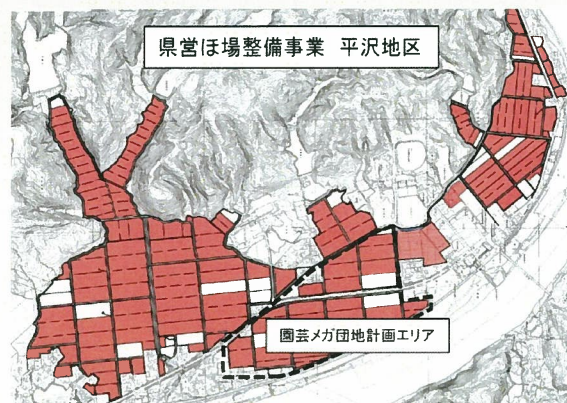
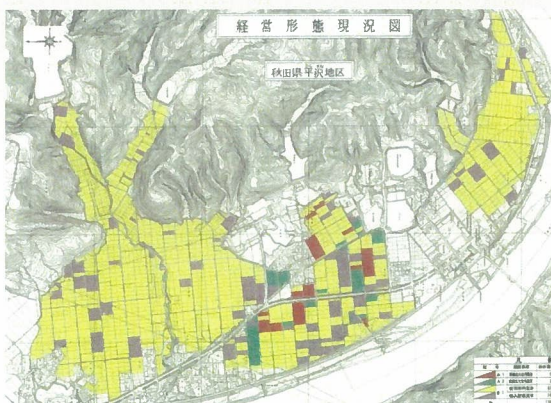
3 集積までの道のり ③集積の加速

平成25年時点の法人への集積率： 82%

【集積が進んだ理由】

- 農地中間管理機構の構想
- 基盤整備事業の促進費（85%以上）
- 米価の下落

3 集積までの道のり ④目標達成



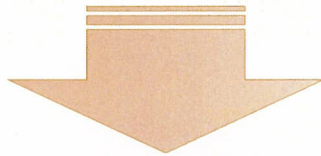
平成26年時点の地区全体の集積率： 86%

3 集積までの道のり ⑤おまけ

平成26年時点の地区全体の集積率： 86%

農地中間管理事業の活用による集積の結果、

地域集積協力金の交付 → メガ団地の設備投資



借金ゼロで法人経営をスタート

14

4 法人経営のポイント

- (1) 作業効率の追求
- (2) 園芸部門による収益の確保
- (3) 技術・雇用の定着
- (4) 意識改革

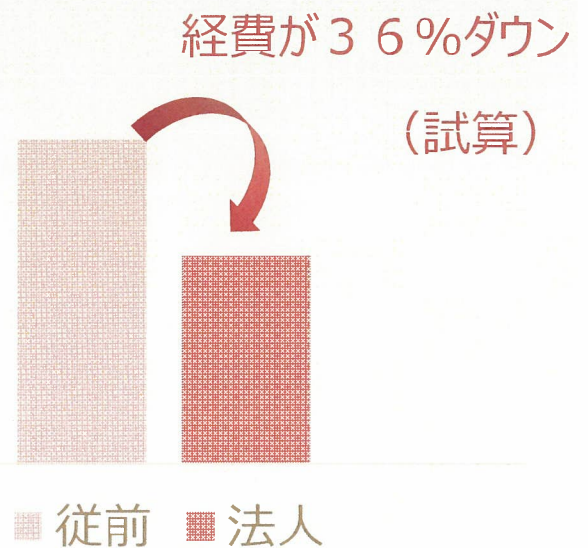
15

(1) 作業効率の追求

10a当たりの作業時間

12.6時間

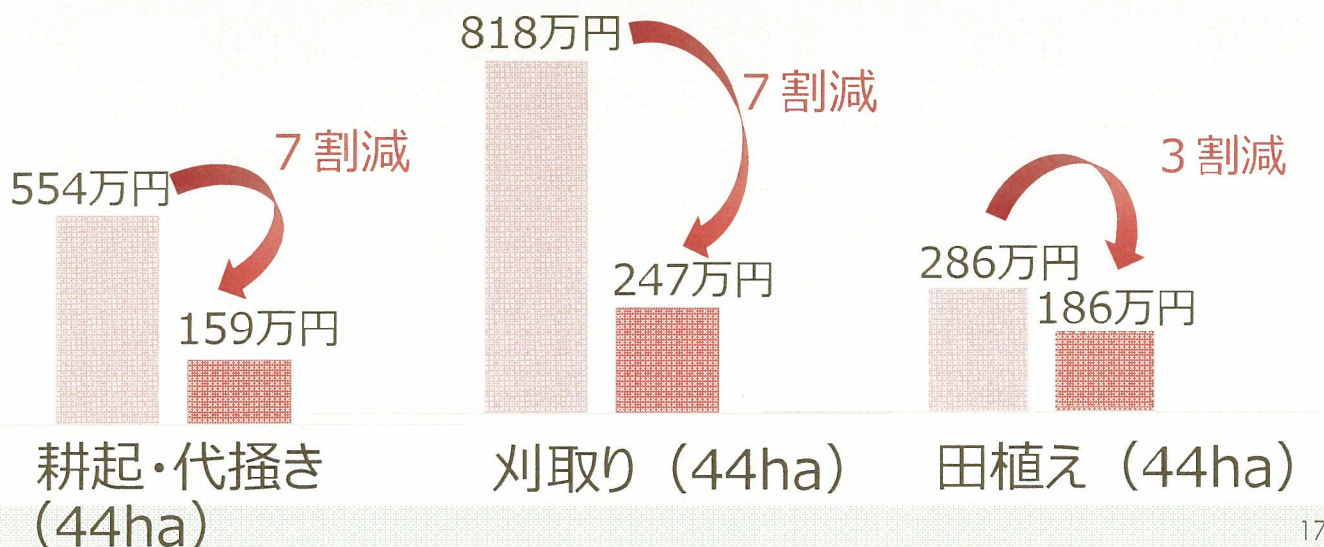
基盤整備により、水稻の
作業が省力化される。



16

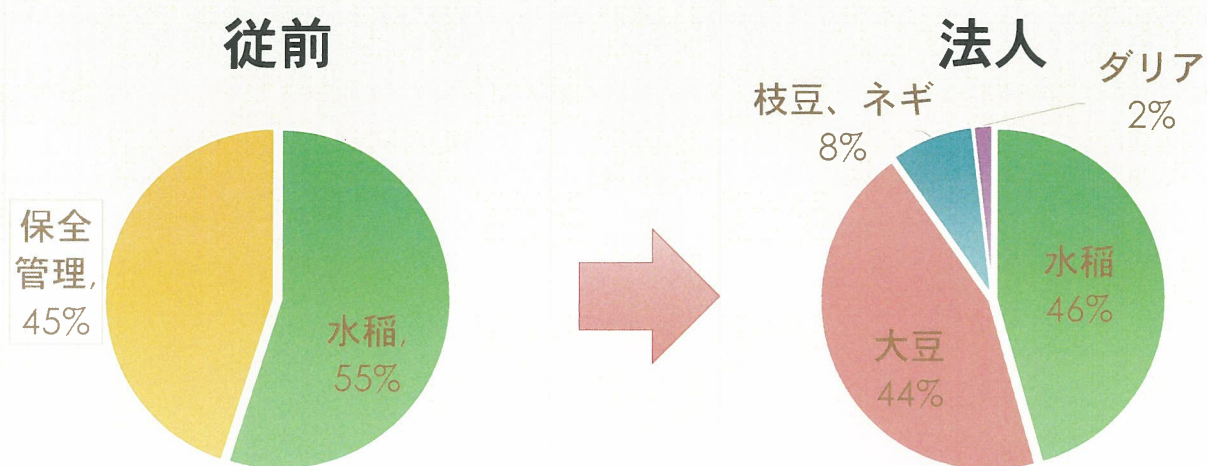
(1) 作業効率の追求

水稻の作業別経費の比較 (従前→法人)



17

(2) 園芸部門による収益の確保



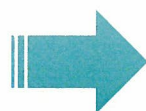
従前と比較し、収入は 2.3 倍以上

18

(2) 園芸部門による収益の確保

- 農地の有効活用
- 最新大型機械の導入による省力化
- 複合化の実現

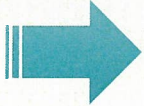
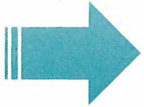
法人の収益増



地域の活性化

19

(3) 技術・雇用の定着

- 技術  メガ団地導入により関係機関からサポート
- 雇用 
 - 米、大豆：会社定年後の再任用
 - 園芸：専任部長、就農者
 - 作業全般：地元・近郊に労働力

(4) 意識改革

「みんなのファーム」

- 法人の継続性をみんなで目指す
- コミュニケーション→ミーティングが重要
- マネジメント

5 課題

○ 後継者の育成



平成 28 年に新入社員を採用

22



ご静聴ありがとうございました

23